

能登

2024.1.29

もう何年も前のことである。家人と車で旅をしたことがある。目的地は、石川県だった。当時はまだ北陸自動車道がなく、地道に日本海沿いの国道をひた走った。加えて、車にはエアコンがなかった。今では考えられない。窓を全開にして車内に風を入れるしか手がなかった。

金沢に着いた。兼六園やひがし茶屋街など、お決まりの観光コースを巡った。金沢はもちろんいいのだが、今でも特に印象に残っているのは、能登半島である。ぐるりと一周した。海のすぐ脇の砂浜を車で疾走した。千里浜なぎさドライブウェイである。どこまでも続く砂浜、いや道だった。

見附島、千枚田などは、今でも覚えている。お金がなかったため、宿泊代を抑えた。和倉温泉に泊まった。あの加賀屋の近くの小さな旅館だった。ちゃっかり加賀屋の見学、将来泊まるための下見もした。いつかは、加賀屋に泊まるぞと心に誓ったことを覚えている。しかし、未だに実現はしていない。

輪島にも泊まった。お目当ては朝市である。朝から、元気のいい、気持ちのいい、おばちゃんたちがたくさん活躍していた。人があたたかい。見ているだけで楽しい。

1月1日、元日の午後4時過ぎからである。前述の記憶が一気に蘇った。テレビが一斉に地震速報に切り替わった。マグニチュード7.6、震度7、大津波警報、にわかには信じがたい光景が飛び込んできた。どのテレビ局も、アナウンサーが繰り返し訴えている。「津波が来ます。早く逃げてください。東日本大震災を思い出してください」画面には、「早くにげて！」の文字が出ている。中には、「にげろ！」というものまであった。叫んでいるアナウンサーもいた。

大規模な火災の映像が映し出された。輪島市である。200棟以上が焼けた。まさしく朝市が行われるエリアだった。若かりし頃に訪れた輪島の朝市が、まるで昨日のここのように思い出された。おばちゃんたちは、代替わりをしているだろう。今も、元気に明るくみんなで朝市を盛り上げ、観光客の人たちに、あたたかい思い出を提供していたはずである。

映像を見ていると、輪島の街が元に戻るにはかなりの時間を要するように思える。朝市が復活するのは、いつのことだろう。だが、はっきりしていることがある。輪島市は必ず蘇る。朝市は、輪島の名物である。必ずや復活する。なぜなら、人は決してあきらめないからである。人は、前に進もうとするからである。そのことは歴史が証明している。大きな地震の被害から、見事に復興を遂げてきた人たちが、それを証明してくれている。能登は、いつの日か、必ず蘇る。そう信じている。

何年後になるかわからないが、また家人と能登半島を一周し、輪島の朝市にも行きたい。そんな日が来ることを信じている。